

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4572100677		
法人名	社会福祉法人川水流福祉会		
事業所名	グループホームひえいの郷		
所在地	宮崎県延岡市北方町川水流卯1080-24 (電話) 0982-47-3211		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年6月19日	評価確定日	平成20年7月31日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは高台にあり、居間から山々や五ヶ瀬川などが見渡され、自然がふれる光景である。ホームの空間も広くゆったりとした中で、利用者が安心して暮らせる環境にある。
ホームの取り組みについては、施設運営者をはじめ管理者・職員が理念に基づいたケアのあり方を十分に認識し、地域とのつながりを大切にしながら日常的な利用者への支援に心がけており、利用者・家族にとって安心できる居場所となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回の評価においては、利用者の思いや意向の把握のためのアセスメント（課題分析）が不足している部分が上げられていた。改善状況としては、センター方式の様式を導入し、職員の勉強会を実施することにより、利用者や家族の意向を取り入れる取り組みを行っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	施設運営者の熱意があり、管理者が中心となって職員と共に自己評価への取り組みがなされている。より良いホーム作りへの姿勢がある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は定期的に2か月に1回開催されており、ホームの理解が深まっている。委員に民生委員、地域包括支援センターも加わるとさらに充実したものが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族会の定期的開催により、積極的に家族の意見を取り入れ、また、ホーム運営、行事への参加など家族の協力・参加が行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 日常的な外出において、近隣への買い物や保育園の運動会など地域の行事に参加し、ホーム利用者との交流を行っている。

【情報提供票より】（平成20年5月25日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤14人、非常勤0人、常勤換算7人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	～1階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	210,000 円	その他の経費（月額）	実費 円
敷金	有（円）	無	
保証金の有無（入居一時金含む）	有（円）	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

（4）利用者の概要（平成20年5月25日現在）

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2	要介護2	5		
要介護3	8	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 82.3歳	最低	58歳	最高	93歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	北方医院、野田クリニック
---------	--------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」をモットーに「自分が入りたい施設」を目指して理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員共に、理念に基づいた利用者への声かけ、ケアがなされており、実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われている行事に参加し地元の人々と交流が図られている。	○	自治会への加入を検討し、利用者が地域の一員としてさらに地域活動に参加する機会を増やしていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を実施することにより、業務を見直していくことの必要性が十分認識され、前向きに取り組む姿勢がある。		

宮崎県延岡市北方町 グループホームひえいの郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を定期的で開催し、ホームの理解が深まっている。	○	運営推進会議の委員に、民生委員、地域包括支援センターも加えることを検討していただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議にも参加をいただき、不明な点は気軽に相談し、指導を受けられる関係がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「郷だより」を発行し、利用者の写真を掲載しホームでの様子を知らせている。来訪時や家族会時には職員が日常的な暮らしぶりについて報告してる。また、必要時は電話連絡している。	○	預かり金の金銭出納帳は詳細に記入され家族からの確認印があるが、確認日を記入しておくことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や家族会時に家族からの意見や要望を聴くように努めている。玄関に苦情受付ボックスを設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併施設設との職員異動があるが、どの職員であっても利用者への対応ができることを基本としており、異動による利用者のダメージがないように配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画に年間を通して月1回の職場内職員研修が位置づけられ実施されている。職場外研修にも積極的に参加し、職員を育てる取り組みが行われている。職員会議も月1回実施され、計画的な業務運営がなされている。	○	職場外研修の復命はなされているが、復命書が母体施設で保管されているので、必要時に活用できるようにホームにも保管できるようにすることが望ましい。また、職員会議録も記録として残しておくことを検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会時に意見交換などを行い、質の向上に向けた取り組みを行っている。	○	近隣の同業者との職員同士の勉強会や相互訪問活動を行っていくことを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用についての説明を行い、本人・家族の希望を聞き、雰囲気になじめるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が自分の思いを話したり、職員に教えたりするという関係があり、共に楽しんだり悩んだりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートとして、センター方式を導入し、利用者の思いや意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議でケアのあり方を十分に検討し、家族にも意見を聴きながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に基づき、日々の記録が詳細になされ、見直しが行われている。	○	モニタリングの際、計画に基づいた到達状況などの結果を、より具体的に記載されるとさらにケア目標が明確になると思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じた併設施設の応援体制ができている。受診の必要な利用者には病院までの送迎を行っている。また、地域の避難所として位置づけされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が毎週往診し、利用者の状況を確認しながら、適切な医療が受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時にホームでの対応が困難になった場合については、併設施設や病院などを紹介するなどあらかじめ説明を行っている。今後は、最後まで生活ができるように取り組んでいく意向がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用開始時に個人情報に関する取り扱いについて説明し、同意書をとっている。職員の言葉かけも丁寧で、プライバシーの配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に掲げているとおり、個々の利用者のペースに合わせた対応をしている。		

宮崎県延岡市北方町 グループホームひえいの郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にテーブルにつき、楽しみながら食事ができている。また、利用者の能力や意欲に沿って、食器の後片づけやテーブル拭きなど自分の役割として行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後に入浴が行われている。一人ひとり個浴で利用者の好みに応じ、入浴が楽しめるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日課に利用者が好む活動を取り入れている。利用者によって、カレンダーめくり、テーブルふき、洗濯物たたみなどの役割を持たせている。また、利用者一人ひとりの朝顔の鉢があり、その成長をみんなで楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝、ホームの周辺を散歩したり、買い物やドライブ、地域の行事への参加など月に4・5回は出かけ、積極的に行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵は掛かっておらず、自由に出はいることができる。		

宮崎県延岡市北方町 グループホームひえいの郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼・夜の災害に備え、計画的に避難訓練を行っている。消防団の方の協力もあり、日ごろからの協力体制ができている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を併設施設の栄養士に確認してもらい、アドバイスを受けている。水分摂取には利用者の状況を確認しながら、確保できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ろうか、居間を含めて共用空間にはゆとりがあり、花や季節の飾り物も多く、静かで穏やかな音楽が流れ、居心地の良い空間が保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、ソファ、タンスが備え付けられている。利用者によっては、テレビや写真、ぬいぐるみなどなじみの物が持ち込まれている。		

※ は、重点項目。